

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年11月4日

【四半期会計期間】 第47期第3四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】 いであ株式会社

【英訳名】 IDEA Consultants, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長 田 畑 日出男

【本店の所在の場所】 東京都世田谷区駒沢三丁目15番1号

【電話番号】 東京(03)4544 局 7600番(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 市 川 光 昭

【最寄りの連絡場所】 東京都世田谷区駒沢三丁目15番1号

【電話番号】 東京(03)4544 局 7600番(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 市 川 光 昭

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第46期 第3四半期 連結累計期間	第47期 第3四半期 連結累計期間	第46期
会計期間	自 平成25年 1月 1日 至 平成25年 9月30日	自 平成26年 1月 1日 至 平成26年 9月30日	自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日
売上高 (千円)	12,971,074	13,850,650	15,703,587
経常利益 (千円)	1,511,626	2,395,883	1,316,661
四半期(当期)純利益 (千円)	1,091,005	1,890,982	964,787
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,231,237	1,916,919	1,155,711
純資産額 (千円)	11,535,811	13,281,572	11,460,204
総資産額 (千円)	19,117,250	21,370,364	20,955,314
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	152.80	264.84	135.12
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	60.3	62.1	54.7

回次	第46期 第3四半期 連結会計期間	第47期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年 7月 1日 至 平成25年 9月30日	自 平成26年 7月 1日 至 平成26年 9月30日
1株当たり四半期純損失金額( ) (円)	25.74	37.51

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(環境コンサルタント事業関連)

第2四半期連結会計期間より、重要性が増した以天安(北京)科技有限公司を連結の範囲に含めております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策、金融政策などの効果を背景とする企業収益の改善が、雇用・所得環境の改善や設備投資の増加につながり、緩やかな回復基調が続きました。一方、景気の先行きは、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の長期化や海外経済の減速の懸念などにより、依然として不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く市場環境は、平成25年度補正予算と平成26年度予算において、当社グループの強みが活かせる事業が多く含まれる東日本大震災からの復旧・復興、社会資本の強靱化・老朽化対策、防災・減災対策などに重点配分されていることから、堅調に推移しております。

このような状況の中、より一層の安定的な経営を行うためには、組織の一体化・効率化とガバナンスを一層強化し、優秀な人材の確保と技術の総合化・多様化・差別化により、社会ニーズや社会構造の変化にマッチした組織構造・事業構造・事業領域への転換を図ることにより、当社独自のビジネスモデルを構築することが必要と考えます。

当社グループは、平成25年から平成27年までの中期経営ビジョンにおいて、「イノベーションによる技術革新・市場創生と経営の効率化」を掲げ、特に これまでの技術開発の成果をもとにした市場創生・新規事業の展開、グローバル人材の育成、コーポレートガバナンスの強化の3つの重要な経営課題に取り組むことにより、強い経営基盤の構築と安定的な成長を目指しております。

当第3四半期連結累計期間における連結業績は、受注高145億4千万円（前年同四半期比12.5%増）、売上高は138億5千万円（前年同四半期比6.8%増）となり、通期予想売上高167億円の82.9%を計上いたしました。

売上高の増加及び徹底した工程管理による売上原価率の低減により、当第3四半期連結累計期間の営業利益は23億8千9百万円（前年同四半期比48.7%増）、経常利益は23億9千5百万円（前年同四半期比58.5%増）、更に特別利益として固定資産売却益を計上したことにより、四半期純利益は18億9千万円（前年同四半期比73.3%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。(セグメント間取引を含んでおります。)

(環境コンサルタント事業)

同事業は、当社及び連結子会社4社(新日本環境調査(株)、沖縄環境調査(株)、東和環境科学(株)、以天安(北京)科技有限公司)が行っている事業であり、環境アセスメント及び環境計画部門、環境生物部門、数値解析部門、調査部門、環境化学部門、気象・沿岸部門の6部門より構成されております。

売上高は80億6千3百万円(前年同四半期比1.4%減)、セグメント利益は11億1千9百万円(前年同四半期比74.2%増)となりました。

(建設コンサルタント事業)

同事業は、河川部門、水工部門、道路部門、橋梁部門の4部門より構成されております。

売上高は54億7百万円(前年同四半期比22.3%増)、セグメント利益は11億4千7百万円(前年同四半期比32.4%増)となりました。

(情報システム事業)

同事業は、システム開発及び画像解析等の事業を行っております。

売上高は3億8千1百万円(前年同四半期比11.2%増)、セグメント利益は4千3百万円(前年同四半期比152.8%増)となりました。

(不動産事業)

同事業は、赤坂のオフィスビル、旧本社ビル等の不動産賃貸事業を行っております。

売上高は1億3千1百万円(前年同四半期比4.4%減)、セグメント利益は7千8百万円(前年同四半期比2.3%減)となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

資産合計は、前連結会計年度末と比べ4億1千5百万円増加し、213億7千万円となりました。流動資産につきましては、主に現金及び預金の減少1千9百万円、受取手形及び営業未収入金の減少3億4千2百万円、仕掛品の減少4億4千2百万円により、前連結会計年度末に比べ6億7千6百万円減少し、64億4千3百万円となりました。固定資産につきましては、主に建物の増加1億2千2百万円、土地の増加7億1千3百万円、有形固定資産その他の増加2億8千1百万円により、前連結会計年度末に比べ10億9千1百万円増加し、149億2千6百万円となりました。

### (負債)

負債合計は、前連結会計年度末と比べ14億6百万円減少し、80億8千8百万円となりました。流動負債につきましては、主に支払手形及び営業未払金の減少1億5千9百万円、短期借入金の減少20億8千3百万円、未払法人税等の増加8億2千6百万円、賞与引当金の増加2億7千7百万円により、前連結会計年度末に比べ12億6千5百万円減少し47億6千7百万円となりました。固定負債につきましては、主に社債の減少6千5百万円、長期借入金の減少9千万円、退職給付引当金の減少1億3千9百万円により、前連結会計年度末に比べ1億4千1百万円減少し、33億2千1百万円となりました。

### (純資産)

純資産につきましては、主に利益剰余金の増加17億8千3百万円により、前連結会計年度末に比べ18億2千1百万円増加し、132億8千1百万円となりました。

企業の安定性を示す自己資本比率は、当四半期連結会計期間末は62.1%であり、また、支払能力を示す流動比率は135.2%であります。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (4) 研究開発活動

当社グループにおける研究開発活動は、当社のみで行っております。当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、3千5百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## (5) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産実績は127億8千6百万円（前年同四半期比8.4%増）となり、これは主に環境コンサルタント事業における除染に関連する業務の増加によるものであります。

受注実績は145億4千万円（前年同四半期比12.5%増）となり、これは主に環境コンサルタント事業における除染に関連する業務や新規の環境リスク検討業務の受注増が大きく寄与しております。

売上高は138億5千万円（前年同四半期比6.8%増）となり、これは主に建設コンサルタント事業における河川施設や道路・橋梁の点検に関連する業務の増加によるものであります。

## (6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの経営戦略の現状と見通しに重要な変更はありません。

## (7) 資本の源泉及び資金の流動性についての分析

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの資本の源泉及び資金の流動性に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	29,000,000
計	29,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月4日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,499,025	7,499,025	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	(注) 単位株式数 100株
計	7,499,025	7,499,025		

(注) 普通株式は、完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日		7,499,025		3,173,236		3,330,314

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 359,100		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,133,100	71,331	同上
単元未満株式	普通株式 6,825		100株(1単元)未満の株式
発行済株式総数	7,499,025		
総株主の議決権		71,331	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権10個)含まれておりません。  
 2 単元未満株式には当社所有の自己株式9株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) いであ株式会社	東京都世田谷区駒沢 3丁目15番1号	359,100		359,100	4.78
計		359,100		359,100	4.78

- (注) 1 所有株式数の割合は小数点以下第3位を切り捨てて記載しております。  
 2 当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できておりませんが、自己株式については当第3四半期会計期間末日現在においては把握ができております。当第3四半期会計期間末日現在の自己名義所有株式数は359,111株で、その発行済株式総数に対する所有割合は4.78%であります。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)	就任年月日
取締役		小池 勲夫	昭和19年6月25日生	昭和51年4月 東京大学助手(海洋研究所)採用 昭和63年1月 東京大学教授(海洋研究所) 平成13年4月 東京大学海洋研究所所長 平成19年3月 東京大学教授(海洋研究所)退職 平成19年6月 国立大学法人琉球大学監事 平成26年4月 当社取締役(現任)	(注)		平成26年4月1日

(注) 平成26年4月1日から平成26年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。



## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年1月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人和宏事務所による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	853,793	834,218
受取手形及び営業未収入金	1,319,401	976,579
有価証券	1,832	2,455
仕掛品	4,611,339	4,168,553
貯蔵品	22,630	26,584
繰延税金資産	140,246	281,503
その他	183,413	166,215
貸倒引当金	12,911	12,590
流動資産合計	7,119,747	6,443,518
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	4,493,958	4,616,684
土地	6,910,952	7,624,755
その他（純額）	562,438	844,140
有形固定資産合計	11,967,349	13,085,580
無形固定資産	84,802	74,090
投資その他の資産		
投資有価証券	862,204	892,391
繰延税金資産	4,969	5,509
その他	934,238	884,559
貸倒引当金	17,995	15,285
投資その他の資産合計	1,783,415	1,767,174
固定資産合計	13,835,567	14,926,845
資産合計	20,955,314	21,370,364
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	685,576	526,504
短期借入金	2,731,808	648,228
1年内償還予定の社債	343,000	165,000
未払法人税等	388,356	1,214,388
賞与引当金	71,193	348,970
受注損失引当金	27,732	26,643
その他	1,784,686	1,837,474
流動負債合計	6,032,352	4,767,208
固定負債		
社債	340,000	275,000
長期借入金	130,651	40,375
繰延税金負債	51,343	100,924
退職給付引当金	2,552,622	2,413,529
役員退職慰労引当金	232,609	249,252
その他	155,531	242,502
固定負債合計	3,462,757	3,321,583
負債合計	9,495,110	8,088,791

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,173,236	3,173,236
資本剰余金	3,352,573	3,352,573
利益剰余金	4,842,297	6,625,733
自己株式	139,037	139,252
株主資本合計	11,229,069	13,012,290
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	216,965	240,745
為替換算調整勘定	14,168	27,816
その他の包括利益累計額合計	231,134	268,561
少数株主持分		720
純資産合計	11,460,204	13,281,572
負債純資産合計	20,955,314	21,370,364

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	12,971,074	13,850,650
売上原価	8,971,036	8,937,884
売上総利益	4,000,038	4,912,766
販売費及び一般管理費	2,393,196	2,523,333
営業利益	1,606,842	2,389,432
営業外収益		
受取利息	6,180	9,076
受取配当金	4,907	5,400
受取保険金及び配当金	2,517	24,543
保険解約返戻金	5,621	675
その他	18,107	12,946
営業外収益合計	37,334	52,642
営業外費用		
支払利息	113,692	16,042
持分法による投資損失	7,101	7,330
損害賠償金	-	15,658
その他	11,757	7,160
営業外費用合計	132,550	46,192
経常利益	1,511,626	2,395,883
特別利益		
固定資産売却益	-	758,343
関係会社株式売却益	-	257
債務免除益	227,284	-
特別利益合計	227,284	758,601
税金等調整前四半期純利益	1,738,910	3,154,485
法人税、住民税及び事業税	588,664	1,372,935
法人税等調整額	59,240	109,310
法人税等合計	647,905	1,263,625
少数株主損益調整前四半期純利益	1,091,005	1,890,860
少数株主損失( )	-	122
四半期純利益	1,091,005	1,890,982

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,091,005	1,890,860
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	132,394	23,779
為替換算調整勘定	7,837	2,265
持分法適用会社に対する持分相当額	-	14
その他の包括利益合計	140,232	26,059
四半期包括利益	1,231,237	1,916,919
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,231,237	1,916,883
少数株主に係る四半期包括利益	-	36

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第2四半期連結会計期間より、重要性が増した以天安(北京)科技有限公司を連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

当社グループの売上高は、事業の性質上上半期に集中する傾向にあるため、各四半期連結会計期間の業績には季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
減価償却費	396,366千円	398,380千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月28日 定時株主総会	普通株式	89,252	12.50	平成24年12月31日	平成25年3月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
 後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年3月28日 定時株主総会	普通株式	107,101	15.00	平成25年12月31日	平成26年3月31日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
 後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	環境コンサル タント事 業	建設コンサル タント事 業	情報システ ム事業	不動産事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	8,114,399	4,421,473	342,497	92,704	12,971,074		12,971,074
セグメント間の内部売上高 又は振替高	63,497			44,451	107,949	107,949	
計	8,177,897	4,421,473	342,497	137,155	13,079,024	107,949	12,971,074
セグメント利益	642,904	866,569	17,193	80,142	1,606,811	30	1,606,842

(注) 1 セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	環境コンサル タント事 業	建設コンサル タント事 業	情報システ ム事業	不動産事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	7,975,146	5,407,797	381,011	86,695	13,850,650		13,850,650
セグメント間の内部売上高 又は振替高	87,855			44,451	132,306	132,306	
計	8,063,002	5,407,797	381,011	131,146	13,982,957	132,306	13,850,650
セグメント利益	1,119,999	1,147,695	43,464	78,274	2,389,432		2,389,432

(注) 1 セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。



(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	152円80銭	264円84銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	1,091,005	1,890,982
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	1,091,005	1,890,982
普通株式の期中平均株式数(株)	7,140,193	7,139,983

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月4日

いであ株式会社  
取締役会 御中

### 監査法人和宏事務所

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 高 木 快 雄 印

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 大 嶋 豊 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているいであ株式会社の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年1月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、いであ株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。